

令和 5年 2月 20日

公益財団法人  
産業構造調査研究支援機構 御中

住 所 東京都新宿区戸山 1-24-1

機関名 早稲田大学文学学術院

代表者 学術院長 高松 寿夫 印



産業構造調査研究事業報告書

産業構造調査研究事業の実施について、下記の通り報告します。

記

- 1、研究課題：石炭産業のライフサイクルと産炭地域の産業構造・人口動態：北海道芦別  
地域アーカイブズによる社会史研究
- 2、研究代表者：嶋崎尚子
- 3、研究実施の概要 別紙のとおり

## 研究事業に関する実施概要

### 1. 研究の目的と意義

本研究は、石炭産業のライフサイクル（開発・発展・成熟・衰退）が、地域の産業構造、人口動態等におよぼした影響を、北海道空知炭田の中核である芦別市を事例に考察することを目的に、2021年度から着手した。本助成を受けて2022年度から本格化し、2023年度半ばに研究成果本を刊行する予定である。本研究対象である芦別市の戦後の人口動態は、石炭産業のサイクルと軌を一にする。1944年当時23,319人であったが、終戦と同時に樺太引揚者や炭鉱への移住者が集中し、1948年49,355人、1951年60,485人と急拡大し、1959年には75,309人にまで達した。その後石炭産業の衰退とともに急速に減少し、1995年には22,931人と終戦直前を下回った。50年間に急激な人口の膨張と収縮を経験した。本研究では、芦別に移入し再び移出していった膨大な人びとの「フットプリント」から、石炭産業が地域に何をもたらしたのかを再現している。

本研究の意義は5点ある。第一に人口動態という新たな視角を導入した点である。炭鉱における労働力編成の流動性を確認する上でも必須の課題であった。第二に「芦別五山」を中心に芦別で稼働した70を超える炭鉱について、長期にわたる合理化過程での労働者の移動の動態を明らかにした。第三に、芦別は道内で最多の樺太引揚者を受け入れた地域である。本研究では、彼らの炭鉱での定着過程をヒアリングと文書資料から再現した。この作業は、調査の実現可能性を考えると最後の機会であった。第四に地域アーカイブズの活用である。本研究では、国内外でも最大規模の網羅性を誇る芦別市星の降る里百年記念館の収蔵資料を利用したが、さらにその収集者である同館前館長の長谷山隆博氏を研究メンバーに加え、重要な文書資料・写真資料等に関する地域文脈を同氏から詳細に聞き取り、記録する方法を採用した。第五に、本研究は、長谷山氏が2020年3月に同館を定年退職し共同研究に資する時間的余裕ができたことで可能となった。さらに2022年は三井芦別炭鉱閉山30周年にあたり、このタイミングも本研究の重要な意義である。

### 2. 研究体制（メンバーと分担）

本研究は、早稲田大学文学学術院の社会学研究者ならびに2011年から組織している産炭地研究会メンバーからなる以下の9名（所属は2022年4月1日現在）で実施した。

1. 嶋崎 尚子	早稲田大学文学学術院・教授	家族・労働・ライフコース
2. 西城戸 誠	早稲田大学文学学術院・教授	環境・女性運動
3. 清水 拓	早稲田大学文学学術院・助手	産業技術史
4. 笠原 良太	早稲田大学文学学術院・招聘研究員	教育・子ども
5. 長谷山 隆博	芦別市星の降る里百年記念館・囑託(前館長)	芦別市史・アーカイビング
6. 島西 智輝	東洋大学経済学部・教授	石炭産業史
7. 中澤 秀雄	上智大学文学部・教授	労働組合史
8. 新藤 慶	群馬大学共同教育学部・准教授	地域・コミュニティ
9. 坂田 勝彦	群馬大学社会情報学部・教授	移住・マイノリティ

## 研究成果に関する実施概要

### 3. 研究実施概要と成果

#### (1) 調査研究の実施

本研究では、2021年度（2回）を含めて10回（最終は2023年3月21・22日予定）のフィールド調査ならびに資料収集を行った。具体的には、炭鉱関係者へのヒアリング（9人、のべ12回）、星の降る里百年記念館所蔵資料の閲覧、スキャニング作業を行った。

- ・2021年7月23日～25日（芦別）：笠原、坂田、嶋崎、清水
- ・2021年10月29日～31日（芦別）：笠原、島西、嶋崎、新藤、西城戸
- ・2022年4月22日～24日（芦別）：笠原、坂田、嶋崎、清水
- ・2022年6月24日～26日（芦別）：笠原、嶋崎、清水、西城戸
- ・2022年6月30日～7月3日（大牟田）：笠原、嶋崎
- ・2022年8月8日～10日（釧路）：笠原、嶋崎、清水
- ・2022年8月17日～19日（芦別）：笠原、坂田、嶋崎、清水、新藤、中澤、西城戸
- ・2022年10月20日～22日（札幌）：嶋崎、西城戸
- ・2022年12月3日・4日（芦別）：笠原、嶋崎
- ・2023年3月21日・22日（予定）：笠原、嶋崎、清水、西城戸

収集した資料ならびにトランスクリプトは以下の10種である。

- ①「三井芦別炭鉱採用申請書」カード（1,970件、データベース化）、②芦別市市制（1953年）以降の広報用撮影写真のデータベース整理（「芦別の四季」100枚）、③『芦別市統計書』（1967-2013）、④『鉱山保安年報』（戦後分）、⑤三井芦別炭鉱関連文書、⑥芦別市内学校記念誌（小・中・高分）、⑦芦別市「引揚者台帳」（4分冊、1,292世帯分、データベース化）、⑧芦別市「復員者台帳」（117人分、データベース化）、⑨『芦別市人名鑑』（8か年分）、⑩ヒアリング・トランスクリプト（全12回分）

#### (2) 研究会の実施

フィールド調査・資料収集に並行して、全8回（内2021年度3回を含む）の研究会（第5回以外はZoomを利用）を開催し、進捗状況の報告、知見の共有ならびにディスカッションを進め、研究成果の取りまとめを進めた。

第1回：2021年7月3日、第2回：2021年9月12日、第3回：2022年3月12日、第4回：2022年5月22日、第5回：2022年8月18日（芦別現地とZoomの併用）、第6：2023年1月7日、第7回：2023年2月8日、第8回：2023年3月23日（予定）

### 4. 研究成果の発信

本研究は、当初の計画を上回る内容で調査研究を実施した。現下、その成果を2023年9月に刊行する予定で編集作業ならびに取りまとめ作業を進めている。本書の構成は以下を予定している。本書は、第1部を「芦別の四季」として芦別市市制（1953年）以降の広報用撮影写真から厳選した100枚に長谷山氏が詳細な解説を付けた写真集とした。当該写真を芦別のあゆんだ記録として刊行することの意義は大きく、刊行への期待が寄せられている。

●『芦別―炭鉱とくまちの社会史』(仮題) 寿郎社より 2023 年 9 月刊行予定

はじめに(嶋崎)

第1部 芦別の四季 写真集(監修:長谷山)

第2部 芦別の石炭産業と人びとの暮らし

- 1.北海道のエネルギー供給地としての芦別:炭鉱と電力開発の歴史を中心に(島西)
- 2.炭鉱への移動と住宅(嶋崎):人びとは、どこから、どのように集まったのか。
- 3.三井芦別炭鉱での仕事(清水)
- 4.三井芦別炭鉱の労働組合と労働運動(中澤)
- 5.三井芦別炭鉱の事故(長谷山・清水)
- 6.炭鉱主婦会と生活学校(西城戸):現在の芦別に何を残したのか。
- 7.炭鉱の子どもと学校(笠原):転校と転入、学校での階層、学校生活
- 8.樺太引揚者と芦別(坂田):芦別における引揚者の体験・経験 何を残したのか。
- 9.炭鉱の衰退とヤマの街(嶋崎):ヤマを去る人たち、どのように、どこへ去ったのか。

第3部 戦後芦別の動向:マクロ統計資料

- 10.炭鉱町の形成(新藤・西城戸):地域産業変動と人口動態(マクロ)、地域の産業
- 11.炭鉱町の階級階層(新藤):炭鉱を含む芦別の人口構成(ミクロ)
- 12.若年労働力の養成と若年層の移出(笠原):マクロ統計

おわりに(西城戸):石炭産業は地域に何を残したのか。功罪両面から確認する。

付録:年表

コラム:

なお、⑦芦別市「引揚者台帳」ならびに⑧芦別市「復員者台帳」分析成果を以下のリサーチ・ペーパーとして公表した。

嶋崎尚子 2023「樺太引揚者の炭鉱地域への移動と定着」, 嶋崎尚子・笠原良太・坂田勝彦・平井健文編, 2023『樺太引揚者の炭鉱への移動プロセス―その構造と経験に関する実証的研究』JAFCOF 樺太研究会リサーチ・ペーパー-Vol.1, 47-75.

## 5. 研究費の使途

本研究助成での研究費使途は、「経費の使用内訳」のとおり、旅費 1,339,413 円、業者委託費 1,636,587 円、雑費 24,000 円である。当初予定額と比して、業者委託費が大幅増となった。これは、研究成果刊行が順調に決定したこと、さらに第1部として芦別市所蔵の写真(100 枚)の掲載が可能となったことから製作費を支出したことによる。その代替措置として、旅費を大幅に減額した。この点はコロナ禍により長谷山氏の東京出張の取り止め、ならびに研究メンバーの旅費を他研究費から充当する等で圧縮した。

最後に、本研究は前述のとおり、本研究助成により当初計画を上回る内容で調査研究を実施し、研究成果を得ることができた。貴機構に感謝申し上げます。

経費の使用内訳

費 目	当 初 予 定 額	実 支 出 額
旅費	222 万円	・ のべ 16 人分 小計 1,339,413 円
業者委託費	60 万円	・ インタビュー録音音声起こし 作業委託 71,500 円 ・ 芦別市「引揚者台帳入力作業」 委託 489,720 円 ・ 『芦別ー〈炭鉱〉と〈まち〉 の社会史』 製作費 1,075,367 円 小計 1,636,587 円
アルバイト謝金	32 万円	小計 0 円
雑費	4 万円	・ 図書資料費 書籍 6 冊 小計 24,000 円
		合計 3,000,000 円